

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	福岡療育支援センターいちばん星志免 放課後等デイサービスいちばん星志免happiness		
○保護者評価実施期間	令和6年10月1日		～ 令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	令和6年10月1日		～ 令和6年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 12月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	避難訓練・防災対策の充実を図った。	<ul style="list-style-type: none"> 頻回な多岐にわたる避難訓練(火事・地震・停電・不審者等) ご家庭を巻き込んだ防災ダイアル訓練の実施 療育室内の防災対策・物品購入・安全性の確認 シーメイトと連携した避難訓練・救急救命の講習参加 職員の積極的な防災研修への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 利用児も参加型のシーメイトと連携した避難訓練時の実施 継続的な避難訓練の実施 ご家庭を巻き込んだ避難訓練の実施 事業所内のBCP対策の内容の充実と頻回な話し合いと見直し
2	個別療育の内容や課題点等をグループ療育に汎化していきながら、利用児の特性等に応じた専門性のある支援を進めている。	<ul style="list-style-type: none"> 各専門職員との連携や情報共有を密に取りながら、利用児の細かな課題についてチームで取り組んでいる。 その日の利用児の振り返りを行い、次なる課題を見つけていけるよう取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自事業所内での連携はとれているので、他事業所を巻き込んだ情報共有や同じ支援の取り組みができるように努める。 専門性を高めていく為の事業所内研修や外部研修に積極的に参加する。
3	保護者へのフィードバック・面談や子育てに関する聞き取りや学校送迎時に学校側とも情報共有を積極的に行いながら、統一した支援を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者へのフィードバックを密に行い、細かく情報共有している 保護者様もこまめにお子さんの情報を開示していただいている 	<ul style="list-style-type: none"> 個別療育の保護者参加の機会を増やして行く。 ペアレントトレーニングも含め、保護者様の勉強会や将来を見通した情報共有の拡大を図る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	余裕を持った活動等のスペースの確保が難しい。	<ul style="list-style-type: none"> 個別療育・集団療育を、1つのスペースで共有している為、活動内容によっては狭く感じる。 長時間療育やきらら園と合同の日は特に人数とバギーや座位保持椅子が多くなり、圧迫感を感じやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事や療育時に広く使いたい時は、シーメイト内の施設を借りて対応。 パーティションを活用し、区切ったり、視界をスッキリできるように整える。 その日に使わない物は、倉庫に入れるなど、整理整頓しスペースを確保。
2	近隣の児童館や施設及び、地域のこどもたちとの交流ができていない。	近隣の施設や児童館等に通常療育の時間内で、足を運ぶことは難しい。	<ul style="list-style-type: none"> 長時間療育時に、近隣の施設にお出かけを企画 シーメイト館内の他事業所との交流を企画
3	保護者交流やご家庭を巻き込んだ行事や催しものを行う機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 親子療育・保護者参加の機会を多く持てなかった。そのため、タイムリーに利用児の反応や表情を保護者様と共有する機会が少なかった。 他事業所と併用されていることがほとんどで、土曜日の行事参加が難しい家庭が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別療育の保護者参加の機会を増やして行く。 親子行事等の企画・回数の増量 保護者勉強会の開催・企画 先輩お母さんの会の開催・企画